

# 国語科学習指導案

日 時 平成 20 年 10 月 24 日 ( 金 )  
活動場所 北校舎 3 階 1 年 2 組教室  
生徒数 1 年 2 組 男子 18 名  
女子 14 名 計 32 名  
指導者 教諭 山 口 裕 範

## 1 教材名

「ユニバーサルな心を目指して」(三省堂)

## 2 教材について

本教材は、視覚に障害のある筆者によって書かれている。筆者は「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という美しいカタカナことばを取り上げる。ところが、それらの中には、中途半端な配慮で障害者が安心して使えないものもある。バリアフリーやユニバーサルデザインは、現状ではさまざまな問題を抱えているのである。その問題を少しでも解決していくには、どのようにしていけばよいのか。環境を作る人も使う人も、それが実際に使われる場面を想定し、その中で発想することによって、それは初めて生かされるものになるのではないか。筆者の問題提起を、筆者自らの体験した生々しい例を通して検討していく構成になっている。

筆者自身の具体的な体験に基づいて語られる内容はきわめてリアリティがあり、切実である。生徒たちはここに示される事実や見方に、新鮮な発見をするはずである。自分達の立場の発想とは違う見方を発見できることで、認識そのものに働きかける内容を持っており、説明的文章を読むことの意味や学ぶ価値を感じ取ることができる教材である。

本教材を、他者や社会にも目を向ける契機としていきたい。

## 3 教材の目標

- (1) 誰もが生活しやすい社会のあり方について考えを深める。
- (2) 具体例を挙げた筆者の意図を明らかにして、要旨をとらえる。

## 4 教材の評価規準

学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて
	A 「十分満足できる」と想定した生徒の状況 C 「努力を要する」と判断した生徒への手だて
ア 国語への関心・意欲・態度	
文章に表れている筆者のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。	A 文章に表れている筆者のものの見方・考え方を理解し、社会のあり方について自分の考えを深めようとしている。 C 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の考え方を具体化しているものを挙げさせる。
イ 書く能力	
読み取ったことをもとに、深まった自分の考えや意見を文章に書くことができる。	A 筆者の主張を理解し、それに対する自分の考えを根拠を示しながら書いている。 C 筆者の主張に対して賛成か反対の立場を明確にして書かせる。

ウ 読む能力	
<p>文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。</p> <p>筆者の考えの進め方や説明について文章の展開に即してとらえている。</p>	<p>A 筆者の考えを読み取り、これからの社会の目指す方向「美しい手応えのある社会哲学」(本文中の象徴表現)について自分の考えを持っている。</p> <p>C1 筆者の言う「立場」の違いに目を向けさせ、その違いについて考えさせる。</p> <p>C2 接続することばに注目させ、文章の展開を確かめさせる。</p>
エ 言語事項	
<p>事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、文と文の接続の関係や段落の役割をとらえている。</p>	<p>A 多様に用いられている語句や語彙が、文章の論理的な構成や説明に関わっていることを理解している。</p> <p>C 段落をつなぐことばに注目させ、文章の展開を確かめさせる。</p>

## 5 教材の指導計画

時間	学習の流れ	評価項目	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>全文を読む。</li> <li>「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」などの語句の意味を知る。</li> <li>「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の例で知っていることを挙げる。</li> <li>第 段落から「ユニバーサルな心」について筆者が示している課題をどうとらえたらよいかを理解する。</li> </ul>	エ- ウ- ウ-	ノート
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 段落から、バリアフリーについての現在の考え方や課題を読み取る。</li> <li>「エレベーター」の例は読み手にどういことを伝えるための例かを考えてまとめる。</li> </ul>	ウ- ウ- エ- イ-	ノート ワークシート
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 段落から「点字ブロック」の例を挙げて筆者が言いたいことをまとめる。</li> <li>筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>	ウ- ウ- エ- イ-	ノート ワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 段落から、筆者の言う「発想」ということばを手がかりに、主題を理解する。</li> <li>文章全体から筆者の主張を読み取るとともに、自分の考えをまとめる。</li> </ul>	ア- イ-	ノート ワークシート

## 6 本時の実際

### (1) 指導目標

「点字ブロック」の例から筆者の考えをとらえ、それに対する自分の考えをまとめさせる。

### (2) 授業設計の視点

#### 音読の場の設定

文章中の語句や内容をとらえるための活動の一つとして、読み取りの過程の初めに音読を行う。

また、本時の学習のまとめの段階で、学習内容を踏まえた上で中心部分を音読する。

#### 叙述に即した理解の手立て

本文中の接続語、キーワード、文末表現に注目させながら、筆者がどんなことを読み手に伝えようとしているかを考えさせる。

(3) 授業の展開

過程	時間 (形態)	学習活動	指導上の留意点( は評価項目)
導入	5分 (一斉)	1 前時の学習を想起する。  2 本時の学習目標と学習内容を確認する。  「点字ブロック」の例から筆者の考えをとらえ、自分の考えをまとめよう。	前時のノートや教科書から想起させる。 「エレベーター」の例が読み手にどのようなことを伝えるための例であったか振り返る。 第 段落で取り上げられている例を確認する。「点字ブロック」
展開	5分 (一斉)	3 第 段落を読み取る。 (1) 第 段落を音読する。	「点字ブロック」のことをどのように述べているか考えながら音読させる。 (斉読 指名読み)
	5分 (一斉) (個)	(2) 「点字ブロック」の役割をとらえる。	「点字ブロック」の役割を確認する。 本文中において、健常者・視覚障害者それぞれの立場でどのように表現されているかを押さえさせる。 段落の内容を押さえさせる。
	5分 (一斉)	(3) 「点字ブロック」の現状をとらえ、そこにどんな問題点があるかをとらえる。	箇条書きで書かせる。
	3分	(4) その他の例をとらえる。	段落を押さえさせる。
	5分 (個)	(5) 「点字ブロック」の例から筆者が言いたいことを60字以内でまとめる。	「思いやりの交換」の意味を考えさせる。 「思いやりを持つ」と比較させる。 「点字ブロック」の例を挙げた筆者の考えをとらえることができたか。
	12分 (個)	4 筆者の考えに対する自分の考えを書く。	自分の体験と照らし合わせて書かせる。 筆者の考えに対して自分の考えを書くことができたか。
	5分	5 友達の考えを聞く。	
終末	5分 (一斉)	6 学習のまとめをし、自己評価カードに記入する。	板書をもとに振り返る。 段落を音読する。